

「地域住民の“信頼”と“人間関係”を基盤にした地域防災SNSの構築に関する研究開発」

1. 研究目的

地域固有の防災情報を住民が共有することにより、災害時や災害回復時の災害・防災情報を効果的に浸透させて被害を最小化させるため、人間関係を基盤とした地域防災SNS (Social Networking Service)の開発を図る。

地域防災の課題

- 地域固有の災害・防災情報が少ないことから被害を受けることがある。
- 隣人との関係が希薄。そのため、助け合いの気持ちが少ない。
- 整備された防災システムは日頃使われないため、いざというときに効果を発揮しにくい。



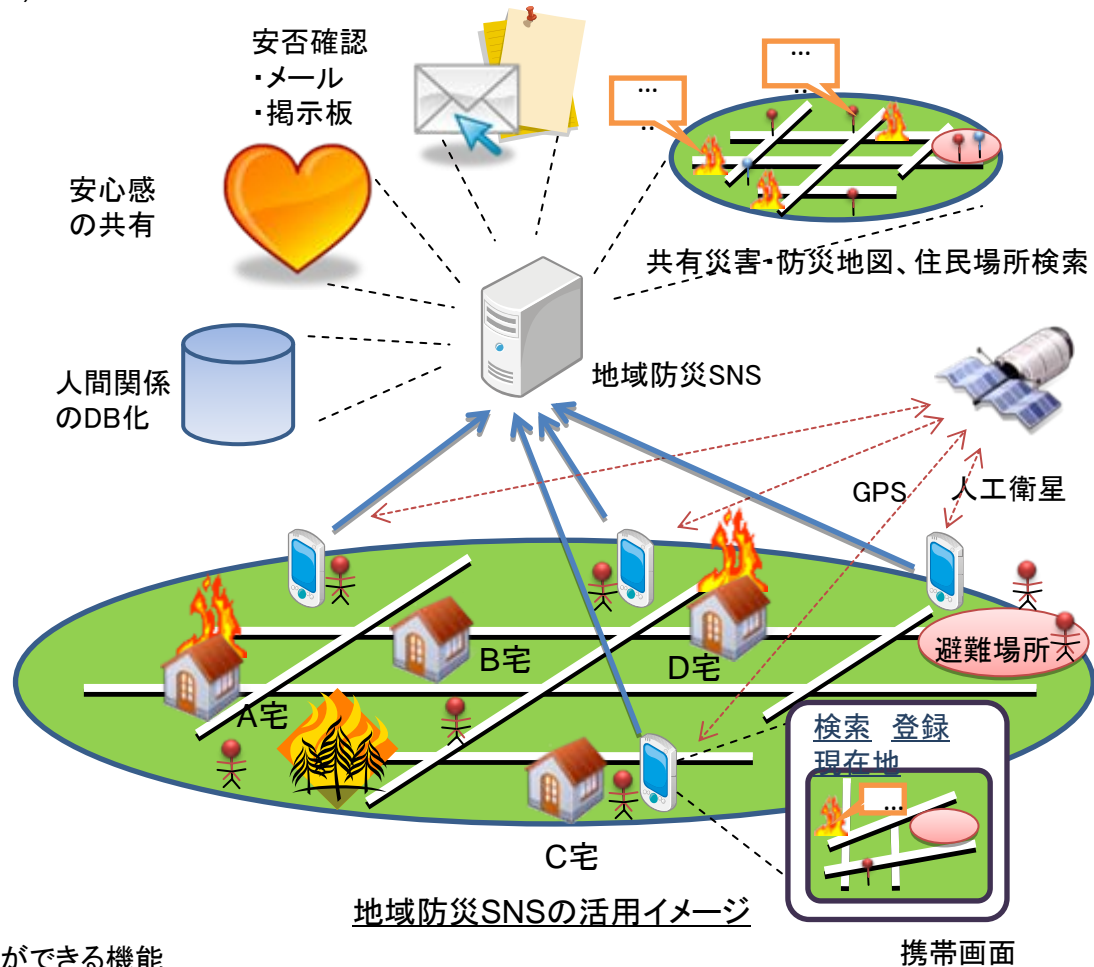
解決策

地域防災SNSの構築 地域の安心・安全は地域が守る

地域防災SNSを日頃から使うことで、

- 地域コミュニケーションの活性化
- 地域防災SNSシステムへの慣れ

を促し、災害時、住民が協力して災害・防災情報を構築・共有することで安心感ならびに安全を確保する。



2. 研究開発の概要

災害時に以下の防災機能等を有するSNSの開発を目指す。

- 災害当事者の心理を考慮したユーザインターフェース(UI)
- 地域住民が協力して構築する共有災害・防災地図機能
- 利用者(住民)をグルーピングし、グループによる安否確認ができる機能

3. 期待される研究成果とその社会的意義

「地域の安心・安全は地域が守る」という考えを元にした地域防災SNSは、平素の人間関係を円滑にし、災害時の住民相互による避難・救助活動を支援することで、被害の最小化を期待できる。また、本研究で開発した地域防災SNSはオープン・ソース・ソフトウェアとして提供し、多くの場での活用が期待される。